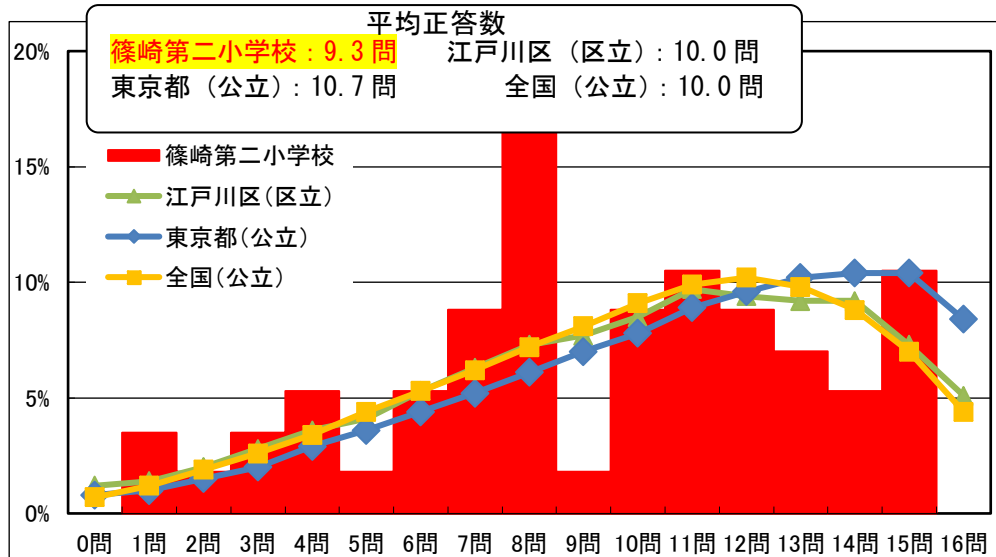


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 篠崎第二小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

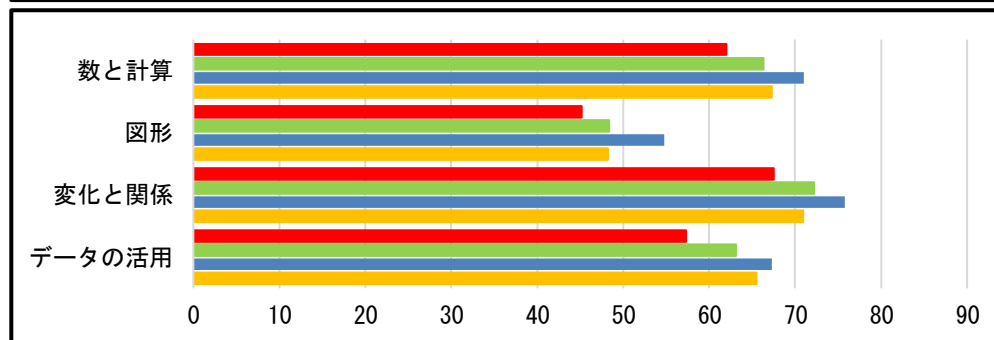
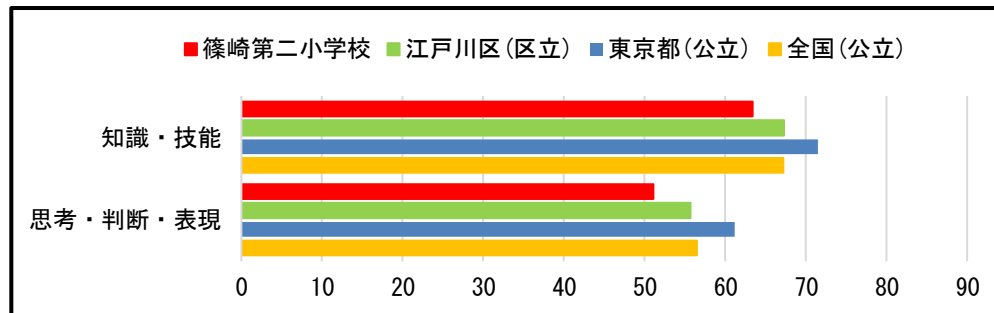
算数	上位 ← → 下位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 8~10問	D層 0~7問
篠崎第二小学校	15.8	26.3	28.1	29.8
江戸川区(区立)	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都(公立)	29.2	28.7	20.9	21.2
全国(公立)	20.2	29.9	24.4	25.5

【平均正答率の差】

篠崎第二小学校	58%
江戸川区(区立)	62%
東京都(公立)	67%
全国(公立)	62.5%
都との差	-9ポイント

%

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

【分析結果】

- 全体の平均正答率、領域別の正答率が、共に東京都の平均を10ポイント程度下回っている。
- 東京都を基準としたC、D層の割合が、東京都より18%程度多い。
- 割合に関する設問の正答率が、東京都より20ポイント程度下回っている。

【授業改善に向けて】

- 習熟度別少人数指導において、自力解決が困難な児童に対しては、実際の量をイメージしたうえで数的処理ができるよう、具体物の観察や操作の場面を多く設定する。
- 対話的な学習を通して、児童と教師のやり取りや、児童同士の意見の交流を積極的に行い、「自分たちで課題を解決した」や「分かりやすく伝えることができた」と、達成感を味わわせ、算数を学習する意欲を継続させる。
- 自分が不得意とする単元を示し、東京ベーシックドリル活用期間に、その単元の問題の復習に集中して取り組ませる。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。